9. 音声レポート作成装置による心筋，心プールシンチグラムのレポート作成の研究

町田喜久雄　本田　憲業　間宮　敏雄
高橋　卓　瀧島　輝雄　釜野　剛
玉城　聡　村松　正行　清水　伸幸
松田　浩二　篠崎　由里
（埼玉医大総合医療セ・放）

音声レポート作成装置による報告書の作成については，いくつかの報告があり，当科においても，これまでにいくつかの研究報告をしてきた．今回はとくに核医学領域の中でも検査の多い心筋，心プールシンチグラムの報告書作成について，検討を加えた．装置は富士通 FMR60HD コンピュータと音声入力装置 F2361A を基本に，ディスプレイ，プリンタ，マイクなどから構成されている．最大で 3000 語を登録できる．用語は基本，自由，専門分野にわけて登録するが，心筋シンチグラムでは 30 個のの文章と語，心プール検査では 25 個の文章と語の登録で，ほぼ大部分の報告書作成に対応可能と考えられた．文章中には選択可能な単語を列記することも容易であり，使用者の使いやすいように文章および単語を自由に登録することが容易であるので，各施設で適したシステムを作成することができる．報告書のファイルもできる機能があるので，有用な装置と考えられる．

10. RI 心室造影法により房化右室を確認し得た Ebstein 奇形

鈴木　孝良　（東海大・一内）
鈴木　豊　（同・放）

Ebstein 奇形の房化右室を非観血的に画像化するために RI 心室造影法を行い興味ある所見を得たので報告した．

症例は 29 歳女性．8 年前に心陰影異常の精査目的で，心エコー図，心内心電図を施行し Ebstein 奇形の確定診断を受けている．

First-Pass 法では，右心系の循環時間の延長，著明に拡大した右房を認め，三尖弁逆流の存在が示唆された．2 因子分析では左右両心室と心房系に分離され，3 因子では，心房系が上大静脈と右心房が分離された．4 因子では心室系が肺動脈と左右心室が分離された．

Multi-Gate 法における 2 因子分析では左右両心室と心房系が分離され，3 因子では心室系がさらに 2 因子に分離されシネモード画像と比較すると，この第 3 因子が拡大した右房の下部を示すことから，房化右室を示すものと考えられた．

以上より，RI 心室造影法は Ebstein 奇形の房化右室の診断に有用であると考えられた．

11. 左肺底動脈体動脈起始症の一例——核医学検査所見を中心として——

小泉　潔　内山　暁　荒木　力
（山梨医大・放）

25 歳男性で，健康診断にて左下肺野の腫瘤状陰影を指摘され，精査および手術により左肺底動脈体動脈起始症と診断された症例を呈示し，その核医学所見に関して考察を加えた．

施行された核医学検査は，まず，^{99m}Tc MAA による肺血流シンチであり，左下葉の S6 を除いた部位の segmental perfusion defect を認めた．次に，^{81m}Kr による肺換気シンチを行ったところ，同部は完全ではないが ^{81m}Kr ガスの流入が認められ，換気血流ミスマッチの所見を示した．CT にて強く増強される異常血管が見られたので胸部 RI アンギオを行ったところ，血流シンチの欠損部は下行大動脈から血流供給されていた．このような大動脈からの血流供給は肺分画症を示唆するが，これは換気血流ミスマッチを示さない．先天性肺動脈欠損はミスマッチを示すが，通常右肺に生じ，大動脈血流供給は著明でない．肺動静脈瘻も本症と血行動態は異なる．以上のように，本症はその病態を核医学検査が良好に反映していた．

12. Drug delivery system における ^{99m}Tc-MAA の有用性

阿部　和男　（昭和大藤が丘病院・消内）
永島　淳一　片山　道夫　（同・放）

今回われわれはリザーバーより ^{99m}Tc-MAA を注入し肝への分布と治療成績を比較しその有用性につき検討した．対象は原発性肝癌 7 例，転移性肝癌 3 例であった．治療効果は固形癌判定基準をもとにして行った．

結果　PD となった 3 例は RI の分布が不均等か A-P シャントにより肺への集積がみられた例であり，一方肝

Presented by Medical*Online